

第4回

国見版C I
検討委員会

2023.11.21

これまで検討してきた内容は「農業」に関することがメインとなっていた。

農業は町の基幹産業であり、農産物も生産者さんも魅力があるということは事実ではあるが、一旦「農業」から離れて、違った角度から町の分析を試みようと思い「歴史」の面から検討した。

昔から普遍的だったものとはなんだろう…



昔から交通の要衝であった

阿津賀志山防塁による主要交通路の遮断

街道が整備された

街道沿いには宿場町が整備された





それは現在にも続いており、
交通の要衝として交通網が
整備されている

国道4号

東北
自動車道
(IC・SA)

JR
東北本線
(貝田駅・藤田駅)

東北新幹線

町民の方へのインタビューやアンケートでも
国見町の推しポイントは

交通の便が意外と良いところ

との声があった。

- ・ 仙台市へのアクセス良
- ・ 東京へもアクセスしやすい

交通の利便性が高い一方で
町外の人からは、

国見って通ったことはあるけど、
何があるか分からなくて
立ち寄ったことないかも・・・

な声をよく耳にする。

道の駅完成後は、道の駅目的で来たなど、町外の人にとって、通過する町から立ち寄ってもらえる町に変化が見られはじめた。

立ち寄ってもらおうコンテンツも徐々に増えており

- ・ 桃や野菜を買いに来た
- ・ ハスを見に来た
- ・ 駅前のアカリに寄ってみた
- ・ 飲食店に来た など

立ち寄ってくれる人が徐々に増えている印象

今後も立ち寄ってもらえるきっかけとなるよう

コンテンツ
づくり

情報発信

が大事

まずは立ち寄ってもらい

町のことを知ってもらい、関心を持ってもらう

補足ですが…

町の歴史を紐解いてみると

多くの人々が国見町を行き交い、滞在し、定住してしまっただ人までいたという記録が残されていました。

近世の頃は奥州街道と米沢・秋田につながる小坂峠があったことから、参勤交代の大名、武士、代官所役人、奥州行脚の俳人、絵師の風流人など多くの人々が国見を行き交い、宿場に滞在した。

藤田宿が絹織物、紙などの集散地として経済力を蓄積し、富商が軒を並べて店舗を構え、取引商の商人が止宿(ししゅく)、中には支店を設置し、土着して老舗となった例がある。

また、交通の利便性が高かったことから、江戸文化の動きをいち早く摂取することが可能であった。江戸・上方の文化を見聞する機会を得て宿場文化は農村にまで広がっていった。

そこで

昔から変わらず受け継がれてきたこと
今後にもつないでいきたいものとして

「交通の要衝」

「立ち寄り・寄り道」

「滞在」

などをキーワードに
スローガンの検討を
行いました。

交通の利便性を活かし、通過するだけでなく
多くの人に立ち寄ってもらいたい
みんなが寄りたい町の意味を込めて

寄り町

よ り ま ち

スローガン案

寄り町

STAY

国見町

寄り町

- ・ 1000年前から多様な人々が立ち寄った利便性と魅力がある町
- ・ これからも寄り道してほしい魅力あふれる町に
- ・ まずは少しでも気になったら寄ってもらい、町を知ってもらいたい

STAY

- ・ 人などがとどまる、滞在する、泊まる、住むの意味
- ・ 町に寄ってもらい、気に入ってもらえたら、また寄ってもらい、滞在してほしい。最終的には住んでもらいたいという想いをこめて。

国見町